

手間をかけず力ネをかけず

知恵を出して

「くふう」するのが改善

改善力 = 知恵 = 現実対応力



2007年6月

中小企業金融公庫

当セミナーは日本HR協会の指導を受けています

1. 「カイゼン」とは？

カイゼンとは「小変」 (定義1)

カイゼンとは「やり方変更」 (定義2)

カイゼンとは「制約対応」 (定義3)

2. 「カイゼン活動」は？

「ムダとり活動」「不要からの手抜き活動」

「必要を、じっくりたっぷりする活動」

社長も社員もみんなで取り組む活動

3. 何をどのようにカイゼンするの？

「ない」と「にくい」で問題点をさがす

2S (整理・整頓) で問題点を浮き彫りにする

対策は、「やめる」「減らす」「カエル」で考え、○○化で実施する

4. さあ、気軽にはじめよう！

カイゼンのネタはどこにでもある (職場にも、自宅にもネタがある)

カイゼンさがしをしてみよう (カイゼンは無意識でやっている)

カイゼンは小変 (チャチなものほどよいカイゼン)

たて・よこ・ななめ、上下・左右をかえてみよう (視点を変える)

アイディアは借りてくるもの、まねるもの (モノマネ、パクリ大歓迎)

できるところまでやればいい (段階的対策)

最善を目指すとは最善にとらわれる (最善はカイゼンの敵)

5. 結果は「改善メモ」に書き出そう！

3分で書く「改善メモ」

「要するに」と唱えて100字以内で簡潔に

対策が分からないときは、問題点だけでも書き出そう

書いたメモを貼る、配る、発表して知恵を共有しよう

事例はカイゼンの定石とともに覚えよう

6. 改善は続けることが大切！

やらされたカイゼンは続かない (楽しくできる仕組み仕掛け)

効果を求めすぎると続かない (効果より件数)

あたり前をバカにすると続かない (改善のABC)

仕事あるところカイゼンあり (カイゼンに終わりなし)

人を責(せ)めず、やり方を責めよう (人を責めない組織)

「それがカイゼンだよ」のひとこと (励まし合う組織)

たかがカイゼンされどカイゼン (チリも積もれば、継続は力)

【進化する組織】

最も強いものや最も賢いものが生き残るのではなく、最も変化に対応できるものが生き残る。

チャールズ・ロバート・ダーウィン 『進化論』

「着眼」「着想」「着手」の定石

日本 HR 協会から借用

着眼（問題発見）	着想（対策：やめる、へらす、カエル）
- 見えナイ - 見ニクイ - わからナイ - わかりニクイ	見える化(視覚化、可視化) 見やす化(色分け、拡大化、強調化) わかりやす化(一覧化、リスト化) 見せる化(展示化、実物化、サンプル化) 目印化、目立つ化、図式化、チャート化、イラスト化、写真化、マンガ化、図形化
- ごちゃごちゃ - 複雑、煩雑、混雑、乱雑 - 混乱、混同、混在	単純化、簡素化、簡略化、簡単化 シンプル化、スマート化、スッキリ化 分別・区別、スムーズ化、スピード化
- アチコチ→さがす - バラバラ、まちまち	定量化→さがさない化、統一化、単一化、公式化、平準化 標準化、マニュアル化、手順書化、フォーマット化
- いちいち、そのつど - 二度手間、重複反復 - 転記、調整、測定	あらかじめ、まえもって、事前対応、先手対応、段取り化 後始末→前始末 / 後手→先手 定型化、ひな型化、様式化、分散化←→集約化 測定するな、判定せよ(限度範囲表示、色分け) 調整するな、設定せよ(突き当て、定尺定量化) 転記するな、転用せよ(転化、転用、応用、流用)
- ワザワザ、面倒 - 別々、個別、バラつき - 忘れる、漏れる、間違える	同時化、連動化、並行化、一本化、一元化、一体化、一括化、共有化、共通化、共用化、共同化、ついで化、ながら化、まとめ化 連番化(番号化、記号化)、記録化
- そのうち、いつか、やがて - なるべく、できるだけ	定期化、定時化、定例化 定量化、定数化、定番化
- やりニクイ、使いニクイ - イライラ・バタバタ・ウロウロ・もたもた	補助具活用(治具、器具、道具、工具)、からくり活用 機能活用(自動化、一斉化、連携化)、制度、サービス、システム
着手（実施：手っとり早く、手軽に、気楽に）	
- とりあえず - さしあたり - せめて - 当面は、当分は - デキルところから、デキルところまで - やってダメなら、また改善 - やって良ければ、また改善 - ベストをめざして、ベターから着手	部分着手 分割着手 複数対策 局部対策 局所対策 段階的対策 一点突破方式